

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-317	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Effect of modafinil on cognitive functions in alcohol dependent patients: a randomized, placebo-controlled trial. アルコール依存症患者における認知機能のモダフィニルの効果：無作為プラセボ対照試験		
執筆者		
Joos L ¹ , Goudriaan AE, Schmaal L, van den Brink W, Sabbe BG, Dom G.		
掲載誌		
J Psychopharmacol. 2013 Nov;27(11):998-1006.		
キーワード		
アルコール依存症、認知機能、モダフィニル		
要 旨		
<p>認知の欠乏はアルコール依存症 (AD) 患者で一般的であり、治療反応と治療転帰に有害な影響を及ぼす可能性がある。認知機能を強化することは、治療の成功を改善する可能性がある。モダフィニルは、この点で有望な合成物である。</p> <p>そこで、83 人のアルコール依存症患者で 10 週間モダフィニル (300mg/d) またはプラセボを投与する無作為二重盲検プラセボ対照試験が行われた。さまざまな認知機能 (数唱作業、Tower of London 作業、Stroop 作業) が、試験開始時、治療の間と後に測定された。</p> <p>プラセボと比較して、モダフィニルはことばの短期記憶 (多くの前方の数唱) ($p=0.030$) を改善した。しかし、モダフィニルは数唱作業 ($p=0.003$) の作業メモリ・スコアに対して負の影響を及ぼした。しかしながら、サブグループ分析でモダフィニルが試験開始時 (25%の最悪のパフォーマー) に弱い作業メモリ能力の AD 患者で作業メモリとことばの短期記憶を改善することが分かったが、モダフィニルの有意の治療効果は試験開始時 (25%の最善のパフォーマー) に良好な作業メモリ技術で患者では、これらの 2 従属変数で見つからなかった。モダフィニルの効果は、計画 (Tower of London 作業) と選択的注意 (Stroop 作業) の計測では見られなかった。</p> <p>目標とされる治療を設計するためには、認知の改善と治療転帰の関係をよりよく理解することが必要であり、更なる研究が必要である。</p>		